

# 10

## キャリア教育・ 職業教育の推進



### 現状と課題

- 社会の中で自らの役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくためには、社会人・職業人としての基礎となる知識・技能などを身に付けることが大切です。そのため、各学校段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育・職業教育を推進し、児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力を育成する取組を通じて、一人一人のキャリア発達を促進する必要があります。
- 中学生が主体的に適切な進路を選択できるよう、全ての教育活動を通じて、組織的・系統的な進路指導を充実させることが必要です。

### 主な取組

#### ▶体系的・系統的なキャリア教育の推進

- ① 児童生徒が明確な目的意識をもって主体的に自己の進路を選択できる能力を身に付けられるよう、「キャリアパスポート」等を活用しながら発達段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。
- ② 社会人・職業人として自立できるよう、地域や産業界と連携・協力し、児童生徒の勤労観・職業観を育成します。

#### ▶中学校での進路指導体制の充実

- ① 生徒が適切な進路を主体的に選択できるよう、進路指導・進路相談を充実させます。
- ② 生徒一人一人に適切な進路指導を行うために、組織的に対応する指導体制の充実を図ります。



(写真1・2) 中学生社会体験チャレンジ

## 11

主体的に社会の形成に  
参画する力の育成

## 現状と課題

- 社会の持続的な発展を生み出すうえでは、一人一人が主体的に社会に関わっていくことが重要です。そのためには、社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担うことができる力を身に付けるため、意見表明による主体性の育成などが重要となります。
- 持続可能な社会の創り手を育成するため、環境や資源・エネルギー問題についての学習の充実が求められます。また、子供たちが社会的に自立した存在になるためには、多様な人々と協働していくための社会性やコミュニケーション能力などの育成が重要です。

## 主な取組

## ▶子供の意見表明による主体性の育成

- ① 社会と関わる中で、様々な課題を自分事として捉え、その解決に向けて意見を表明する活動を通して、子供の主体性を育む教育を推進します。
- ② 児童生徒が主体となって、自身に関わるルール等の制定や見直しの過程に参画する取組を推進します。

## ▶多様な人材と協働する力の育成

- ① 地球規模課題を自らの問題として捉え、課題解決に向けて自ら考え行動を起こすことができる力を育むため、SDG s の実現に向けた教育を推進します。
- ② 探究的な学習や体験活動を通じ、多様な他者と協働しながら主体的に学び、話し合い、考えの統合を図ることなどにより、コミュニケーション能力や問題解決能力などの協働する力を育みます。

目標4 自立する力の育成 に対する指標

※現状値は令和6(2024)年時点、目標値は令和12(2030)年時点です。

指標 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合			
指標の定義	「全国学力・学習状況調査(小6・中3)」の質問紙調査において「将来の夢や目標を持っている」という質問に「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合。		
選定理由	キャリア教育を推進することが、将来の夢や目標を描ける児童生徒が増えることにつながるため。		
	現状値	目標値	目標値の根拠
小学校	82.8%	87.0%	キャリア教育を推進することにより、全国トップの水準となることを目指して、目標値を設定。
中学校	69.6%	74.0%	

指標 中学校において主体的に社会に参画していく力を育成するために、外部機関と連携した取組を実施している学校の割合			
指標の定義	中学校において、主体的に社会に参画していく力を育成するために、外部機関と連携した取組を実施している学校の割合。		
選定理由	主体的に社会の形成に参画する力を育成するため、外部機関と連携し、実践的な活動を通して学ぶことが有効であるため。		
	現状値	目標値	目標値の根拠
中学校	100%	100% を維持	全ての中学校で主体的に社会に参画する力を育成するために外部機関と連携した取組を継続していくことを目指し、目標値を設定。